

進捗状況の概要 【1ページ以内】

ASEANの主要大学4校（シンガポール国立大学、マラヤ大学、チュラロンコン大学及びアテネオ・デ・マニラ大学）で構成されたコンソーシアムの枠内で、①ショートターム交流、②セメスター交流、③ダブルディグリープログラム及びインターンシッププログラムに繰り返し参加させることで、スパイラル式に学生の意欲や能力のレベルアップを図るとともに、強固なコンソーシアムを利用したマルチラテラルな教育体制で、最大の教育効果をねらう。リーガルマインドを涵養することで、普遍的な原則を尊重すると同時に、加盟国の固有性・地域の多様性を理解し、地域を協調的発展に導く日本とASEANの懸け橋となる人材を育成することを目指し、下記の取組みを行った。

1. システムの構築

1-1 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取り組み

(1) 海外提携校との連携

採択後のキックオフセミナー及び毎年1回定期的に提携校の関係者を行うコーディネーションミーティングにおいて連携強化を図り、質保証を伴う枠組を共有した。なお、平成26年度5月の受入プログラム実施時に、各国から識者を招へいし第一回外部評価委員会を開催、プログラム全般について、事業コンセプト、参加学生の満足度及びアウトカム、サポート体制について非常に高い評価を得た。

(2) 環境整備

本事業に専念する支援室を設置し、渡航前から渡航後にかけてきめ細やかな派遣・受入学生のケアを行い、万全の危機安全管理体制構築を図った。

2. 交流プログラム概要

2-1 ショートターム交流（SENDプログラム）

全学部の主に学部生を対象とし、「コンフリクト・マネージメント」、「文化遺産と文化的アイデンティティ」をテーマに、①派遣前の正規授業履修とトレーニングプログラム（現地語・日本語教育支援講座、海外招へい講師による講義等）を経て、②提携校法学部および日本学専攻の学生との共同ワークショップ、③現地高校等において日本文化紹介日本語教育支援を実施し、スパイラル型のSENDプログラムを実践した。さらに派遣・受入の両方において、文化遺産を多角的に捉え様々な課題を具体的に理解するため、提携校学生と本学学生共同のヘリテージ研修を企画し、法的思考を育み学び合う豊かな交流を図った。なお、この一部は学生の主体的な企画によるものであった。この結果H24年度には22名の派遣、H25年度には40名の派遣及び34名の受入を実現した。さらにH26年3月には、各提携校からの要望により提携校4校4カ国の学生と本学学生との合同研修を沖縄県で実施し、従来のバイラテラルな交流から新たにマルチラテラルな交流を実現した。

2-2 セメスター交流・インターンシッププログラム（SENDプログラム）

H25年度にシンガポール国立大学に1名を1セメスター派遣した。また、マラヤ大学との共同開発インターンシッププログラムとして、ハーグ国際私法会議香港支部へ1名を長期派遣した。また、シンガポール国立大学より1名を受入れた。

2-3 ダブルディグリープログラム

H25年度コーディネーションミーティングにおいて、大卒の合意を得た。H26年度中に各提携校とMoUを締結させ、H27年度以降から派遣・受入を実施していく予定である。

【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
5名	22名	0名	0名	14名	42名	20名	35名